

榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ニュースレター

No.6

発行日：平成 22 年 3 月
事務局：榎野川河口域・干潟自然再生協議会

<山口湾の干潟を守る会（藻場・干潟保全活動支援事業）>
21 年度から始まった藻場・干潟保全活動支援事業により、干潟の保全活動を行う組織として、山口県漁協山口支店と榎野川漁協の組合員を中心に構成された「山口湾の干潟を守る会」が新たに立ち上げられました。干潟を守る会では、今後5年間のアサリ管理とナルトビエイ駆除の干潟保全活動に取り組みます。

山口支店による干潟管理/山口県漁協山口支店

21 年 7 月から保全活動として、被覆網によるアサリ管理を開始。新たな被覆網も設置して、アサリの間引き作業や、網の保守管理を行っています。21 年 4 月から 11 月までの間の 6 回の間引き作業で、約 500kg のアサリが収穫されました。今後、被覆網の追加による漁場拡大で、アサリ資源の増大を目指します。



被覆網の交換作業



アサリ間引き作業



間引きされた 30cm 以上のアサリ

ナルトビエイの駆除/榎野川漁協

干潟を守る会のナルトビエイ駆除活動として、8 月から 10 月までの間に 23 回行われ、合計 44 尾のナルトビエイを駆除しました。アサリの外敵であるナルトビエイ駆除を行うことで、アサリ資源の回復を応援していきます。



ナルトビエイの駆除の様子



<カブトガニワーキンググループの取組>

山口湾のカブトガニ産卵場、生息場の保全を図るため、カブトガニワーキンググループ（原田直宏グループリーダー）を中心に取組んでいます。平成 21 年度は、9 月 5 日に 37 人の参加者でカブトガニ幼生の生息状況を把握するため「ラインセンサス法」を用いた調査を行いました。その結果、発見された幼生は、長浜 210 個体、南潟 13 個体の計 223 個体で、平成 18 年の調査開始以降で最も少ない結果でした。

また、今年から山口大学でもカブトガニ二幼生生息域において COD や粒度などの面的な分布状況を調べたほか、高精度な GPS を用いて干潟の標高も測定し、幼生の生息環境について研究を開始しました。来年度以降も継続する予定です。



カブトガニの幼生

※ 資料の公開方法
協議会で公開された資料及び議事要旨等については、榎野川河口域・干潟自然再生協議会のホームページ (<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html>) で公開しています。
※ ご意見・ご質問等の問い合わせは、事務局（山口県環境生活部自然保護課）に電話、FAX、メールでご連絡ください。
TEL 083-933-3060、FAX 083-933-3069、E-mail a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

制作・発行：環境省 中国四国地方環境事務所 〒700-0984 岡山県岡山市北区桑田町 18-28

このニュースレターは、榎野川河口域・干潟自然再生協議会で話し合った内容や自然再生の取組の状況などをお知らせするものです。平成 21 年度の取組状況は以下のとおりです。

実施日	内容
4 月	24 日 山口湾の生物資源回復に関する研究会ワークショップ（前年度から継続 8 月まで計 10 回実施） 25 日 干潟耕耘実証試験（耕耘、被覆網）、干潟観察会（南潟） 詳細干潟モニタリング（春季：南潟） 干潟モニタリング（南潟）：目視調査（以降毎月実施）
7 月	7 日 山口湾の干潟を守る会（藻場・干潟保全活動支援事業） アサリ管理（南潟）：間引き、被覆網管理、モニタリング等（以降適宜実施） 9 日 詳細干潟モニタリング（夏季：南潟）
8 月	21 日 山口湾の干潟を守る会（藻場・干潟保全活動支援事業） ナルトビエイ駆除/榎野川河口（8 月～10 月まで 23 回実施）
9 月	5 日 カブトガニ幼生生息調査（自然再生協議会：カブトガニワーキンググループ） 19 日 アサリ浮遊幼生調査（9 月～11 月まで 5 回実施）
10 月	2 日 詳細干潟モニタリング（秋季：南潟）
12 月	3 日 詳細干潟モニタリング（冬季：南潟）
2 月	13 日 榎野川河口域・干潟自然再生協議会（第 1 回：通算 10 回）

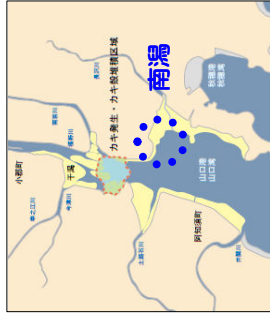
<平成 21 年度の主な取組>

榎野川における良好な河口干潟生態系の生物指標のうち、代表的なものはアサリやカブトガニ、アマモ場であり、これらの生息・生育環境の再生を目指しています。

平成 21 年度は、南潟で引き続き地味参加型の干潟耕耘や被覆網の設置等の取組を行いました。また、本年度からは、山口県漁協山口支店がアサリ管理グループを立ち上げ、アサリ資源の増大へ向けた積極的な取組が始まりました。

榎野川や山口湾全体の取組としては、調査研究ワーキンググループ活動の一環として、山口湾の生物資源回復に関する研究会ワークショップ（研究会代表 浮田正夫 山口大学名誉教授）が、平成 21 年 1 月から 8 月まで、計 10 回開催され、積極的な意見交換をもとに、今後の自然再生へ向けての方向性等が議論されました。

また、「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」の第 10 回の委員会を平成 22 年 2 月 13 日（土）に山口市阿知須地域交流センターで開催し、約 40 名の参加者で委員公募、21 年度の成果と 22 年度の活動予定について話し合われました。



榎野川河口干潟（南潟）で育ったアサリ食す！！

榎野川河口干潟自然再生協議会が設立（平成 16 年 8 月）後、約 5 年が経過し、産学官民一体のもとで、様々な干潟再生へ向けた取組がなされてきました。その結果、ようやく念願であったアサリを干潟再生活動に参加していただいた皆様と味わうことができました。



<南潟 干潟再生活動>

平成21年度は、4月25日に地域住民のみならず、クワやスコップを利用して人力で約3,000㎡の干潟を耕耘しました。その後、モニタリング調査として底生生物や底質などの状況を調べました。

平成19年4月に設置した被覆網区(3年目)では、昨年同様に3cm以上のアサリが高密度で生息し、殻長も最大約4cmになり良好に成長していました。また、大きいアサリを定期的に間引きすることで、稚貝の増加や成長がみられるようになりました。

実証試験の様子

干潟耕耘、被覆網の設置を行いました。また、参加した子供達を対象に干潟観察会を行い、干潟を身近に感じてもらいました。



耕耘作業の様子



被覆網設置の様子



干潟観察会

アサリの間引き作業の様子

耕耘後には、被覆網(9mm目合)下のアサリが大きくなり過密状態になったため、一部アサリの間引き作業を行いました。間引いたアサリは、参加したみなさまで分けて持ち帰りました。



アサリ間引き作業



おみやげにアサリ

全員集合

干潟再生活動は、榎野川河口域・自然再生協議会委員や地元地域住民のみならず総勢114名で行いました。



<山口湾の生物資源回復に関する研究会ワークショップ>

研究ワークショップの内容は、以下のとおり、延べ44名の方々に講演いただき、毎回30~50名程度の参加がありました。各演題の資料は、事務局が保管していますので、興味のある方はお問い合わせ下さい。

月日	テーマ	演題	演者
第1回 (1/24)	漁業の推移と現状	● 周防灘におけるカルトビエイの生態について ● 周防灘における小底漁業の漁獲物と投棄魚の変遷 ● 山口湾の生物資源研究会と研究ワークショップの計画について～豊かな里海の再生のために明らかにすべき課題～	山口県水産研究センター 和西昭仁 山口県水産研究センター 木村博 山口大学名誉教授 浮田正夫
第2回 (2/14)	干潟・干潟の再生	● 里海づくり・東京湾でのアマモ場再生活動を例にしてアサリ増殖の考え方と事例 ● 榎野川河口域の平成20年度の取組状況 ● 山口湾(南潟)におけるアサリの動向について ● 平成20年度住民参加型自然環境調査活動報告 ● 住民参加型アマモ場づくりの取組について ● 山口湾のカブトガニ生育状況	NPO法人海辺づくり研究会 木村尚 株式会社東京久栄 柿野純 山口県自然保護課 福本寛之 山口県環境保護センター 角野浩二 株式会社東京久栄 斉藤政幸 山口県水産振興課 岡田浩二 山口県水産振興課 原田直宏 山口県水産振興課 岡田直宏 山口県水産振興課 岡田直宏
第3回 (3/31)	里山・里海現場からの報告	● 里山と人々の暮らし ● 今、森林は ● 里海の思い出と身近な環境の変化 ● 山口湾における漁業のいまむかし	山口中央森林組合 吉光繁明 二島農協 下瀬善弘 山口県漁協山口支店 岩本和美、嘉川支店 渡邊久夫、山口県自然保護課 山野元 山口県立大学 安塚遊地
第4回 (4/24)	化学物質の影響など	● 山口湾における化学物質汚染の現状 ● 山口県における化学物質汚染の現状～その2～ ● 地学的に見た榎野川流域 ● 水域における化学物質汚染とその影響について	環境保護センター 田中克正 環境保護センター 谷村俊史 株式会社東建ジオテック 堀田政則 神戸大学大学院海事科学研究科 岡村秀雄
第5回 (5/23)	地球スケールから見た山口湾	● 山口湾の野鳥(渡り鳥)としての山口湾の重要性) ● 一次生産に及ばず鉄などの微量元素の影響 ● 海の生産性と微量元素の関わりについて	日本野鳥の会山口県支部 原田量介 県立広島大学 内藤佳奈子 広島大学生物生産学部 長沼毅
第6回 (6/6)	濁りの問題を考える	● 農地管理の変化と濁りの水の排出の関わりについて ● 榎野川の治水・利水・砂防の変遷について ● 榎野川における底質細泥と河川からの供給 ● 有明海における底質細泥と河川からの供給	山口大学農学部 深田三夫 山口県河川課 野村 誠 山口大学名誉教授 浮田正夫 山口大学工学部 山本浩一
第7回 (7/18)	水質および基礎生産量の変化	● 山口湾・周防灘の水質変化とその要因 ● 周防灘の浅海定線データの解析(気象・海象条件の変化) ● 周防灘におけるアサリ幼生の移動と分布 ● 瀬戸内海における基礎生産量をめぐらる問題について	山口県環境政策課 藤本貴行 山口県水産研究センター 和西昭仁 水産総合研究センター瀬戸内海水産研究所 手塚尚明 香川大学 多田邦尚
第8回 (7/31)	改善対策ほか その1	● 榎野川における内水面漁業について ● アマモ場の造成技術の現状について ● 山口県におけるアサリ資源回復とアサリ人工育苗生産の状況 ● 山口湾における藻場・干潟の再生事業の評価について	榎野川漁協 田中 実 広島県環境保健協会 平岡喜代典 山口県水産研究センター 多賀 茂 株式会社東京久栄 高月邦夫
第9回 (8/8)	改善対策ほか その2	● 阿知須干潟における魚礁効果について ● 山口県の水産行政について～沿岸漁業を中心として～ ● 森林・林業の現状と課題 ● 流砂系問題の全国的な取り組み及び今後の課題について	葉山土木コンサルタンツ 伊藤浩文 山口県水産振興課 今井 厚 山口県森林企画課 金子省一 中国地方整備局 板屋英治
第10回 (8/21)	総合シンポジウム	● 榎野川の今と昔 ● 生態系に配慮した川づくり ● 沿岸および河川の生物の生態について ● 沿岸水産資源の衰退と森海連携 ● 農業の文化と環境倫理-環境への加害者：現代農業をどうするか- ● 総合討論	榎野川漁協 徳水 馨光 九州大学 島谷幸宏 徳島大学 浜野龍夫 鳥取大学名誉教授 田中 克 鳥取大学名誉教授 津野幸人 研究会世話人 浮田正夫、関根雅彦、山野元

研究会代表 浮田先生から

生物多様性、自然共生の面で、日本の里山・里海の知恵を、いまは既に昔の姿ではなくなってしまっていますが、世界に発信していくことが求められています。本研究の成果が少しでもそういう面で貢献できれば望外の喜びです。下記は、我々の榎野川・山口湾の取組にちなみ、本研究会で得られた知見も参考に、小生が作詞作曲した『榎野川賛歌』の一部です。

仁保の清流 カジキ鳴き ゲンジボタルの大乱舞
干潟に渡りの カモ シギ チドリ 2億年前のカブトガニ
アマゴ アユ ドジョウ ウナギ モクスガニ
シジミ トビハゼ アサリ アオノリ アマモ
ゆたかな生物 呼び戻そう
榎野川のきれいな流れ 人々の願いいつまでも

